

# 第 5 7 期 決 算 公 告

2022年6月16日  
 東京都江東区有明三丁目7番26号  
**五 栄 土 木 株 式 会 社**  
 代表取締役社長 玉井 昭治

## 貸 借 対 照 表

( 2 0 2 2 年 3 月 3 1 日 現 在 )

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産		流動負債	
現金預金	332,834	工事未払金	855,446
受取手形	38,887	その他事業未払金	855,678
完成工事未収入金	991,530	リ－ス債務	4,032
工事売掛金	44,958	未払金	249,584
売掛金	1,320,418	未払費用	98,759
未成工事支出金	64,120	未払法人税等	65,090
仕掛品	42,974	未払消費税等	950,934
材料貯蔵品	210,589	未成工事受入金	176,868
未収収益	11,668	完成工事補償引当金	1,899
未収入金	107,253	賞与引当金	144,000
関係会社預け金	6,150,000	工事損失引当金	13,058
その他	12,699	預り消費税	155,014
流動資産合計	9,327,936	仮受金	65,251
固定資産		流動負債合計	3,635,618
(1)有形固定資産		固定負債	
建物	304,865	リ－ス債務	14,103
建物附属設備	41,174	退職給付引当金	387,973
構築物	3,932	長期未払金	7,560
船舶	303,836	固定負債合計	409,636
機械・運搬具	7,099	負債合計	4,045,254
工具器具・備品	5,418	(純資産の部)	
土地	482,048	株主資本	
リ－ス資産	16,487	(1)資本金	200,000
有形固定資産合計	1,164,861	(2)利益剰余金	
(2)無形固定資産	20,185	利益準備金	50,000
(3)投資その他の資産		その他利益剰余金	6,598,741
投資有価証券	7,035	繰越利益剰余金	6,598,741
関係会社株式	2,500	利益剰余金合計	6,648,741
破産更生債権等	22,155	株主資本合計	6,848,741
長期前払費用	2,941	評価・換算差額等	
繰延税金資産	204,213	(1)その他有価証券評価差額金	436
その他	67,659	(2)土地再評価差額金	97,099
貸倒引当金	22,155	評価・換算差額等合計	96,662
投資その他の資産合計	284,349	純資産合計	6,752,078
固定資産合計	1,469,397	負債純資産合計	10,797,333
資産合計	10,797,333		

# 個別注記表

## 1. 重要な会計方針に係る事項

### (1) 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

(ア) 関連会社株式

原価法（移動平均法）によっている。

(イ) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

- 決算期末日の市場価格に基づく時価法によっている。  
（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定している）

市場価格のない株式等

- 原価法（移動平均法）によっている。

棚卸資産の評価基準及び評価方法

(ア) 未成工事支出金及び仕掛品の評価は原価法（個別法）によっている。

(イ) 材料貯蔵品の評価は原価法（先入先出法）によっている。

なお、材料貯蔵品の貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定している。

### (2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却の方法は定率法を採用している。但し、1998年4月1日以降取得の建物（建物附属設備を除く）及び2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっている。なお耐用年数及び残存価額については、法人税法の定めと同一の基準によっている。

無形固定資産（リース資産を除く）の減価償却の方法は定額法を採用している。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用している。

所有権移転外ファイナンスリース取引に係るリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価格を0とする定額法によっている。

### (3) 引当金の計上基準

貸倒引当金は、債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については過去の貸倒実績率を基礎とした将来の貸倒損失の発生見込率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。

完成工事補償引当金は、完成工事に係る瑕疵担保の費用に備えるため、過去の実績をもとに将来の瑕疵補償見込額を加味して計上している。

賞与引当金は、従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、当会計年度末における支給見込額に基づき計上している。

工事損失引当金は、当期末手持工事のうち損失の発生が見込まれるものについて将来の損失に備えるため、その損失見込額を計上している。

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、簡便法により期末自己都合要支給額相当額を計上している。

#### (4) 収益及び費用の計上基準

主要な事業である建設事業においては、顧客との工事請負契約に基づき、目的物の完成及び顧客に引渡す義務を負っている。

当該履行義務は、主として工事の進捗に伴い支配を顧客に移転することとなるため、一定の期間にわたり充足されると判断しており、履行義務の充足に係る進捗度に基づき、一定の期間にわたり収益を認識している。

履行義務の充足に係る進捗度の測定は、各報告期間の期末日までに発生した工事原価が、予想される工事原価総額に占める割合に基づいて行っている。

履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができないが、発生する費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準にて収益を認識することとしている。なお、契約における取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い工事については、代替的な取扱いを適用し、一定期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識している。

2. 当期純損益金額                      当期純利益    633,393 千円

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示している。